

防災科研ニュース

2014 Spring No.184 (C) 独立行政法人防災科学技術研究所



特集

- ◎日本海溝海底地震津波観測網の整備
- ◎房総沖システムの海洋部敷設工事
- ◎津波の発生場における海底圧力

研究最前線

- ◎超高層建物崩壊のE-ディフェンス実験
- ◎大規模空間吊り天井の加振実験結果速報

行事開催報告

- ◎火山災害軽減国際ワークショップ2013を開催
- ◎ワークショップ「降雪に関するレーダーと数値モデルによる研究(第12回)」を開催
- ◎TOMACS/RDP第1回国際ワークショップ
- ◎SATテクノロジー・ショーケース2014で発表
- ◎2013年度 積雪観測講習会の報告
- ◎震災対策技術展

春

特集 日本海溝海底地震津波観測網

防災科学技術研究所(防災科研)は2011年東日本太平洋沖地震の震源域及びその周辺の海域において、大規模なリアルタイム海底観測網を常設する「日本海溝海底地震津波観測網の整備」を進めています。日本海溝と千島海溝南端を取り囲むように房総沖から北海道沖まで、面積にして25万平方キロメートルという広大な海底に、地震と津波を同時に観測する観測網を設置する計画です。観測網ができあがるとこれまでリアルタイム観測の空白域となっていた東日本太平洋沖の海底において、東西方向には約30 kmおき南北方向には約50 kmおきに設置する150点の観測点が、海底から地震と津波をモニターする世界初の大規模な体制が整

うこととなります。海域で発生する地震はこれまでより最大30秒程度早く検知することが可能となり、また津波についてはこれまでより最大20分程度早く沖合で検知して津波の高さを実測することが可能となります。

災害軽減を目的として文部科学省補助金ですすめている本観測網のデータは、防災科研、大学、研究機関、気象庁等にリアルタイムで流通して、迅速な津波検知と情報発信、沿岸での津波高の高精度・迅速な予測と情報発信、海溝型地震の発生メカニズムの解明と予測、緊急地震速報の高度化などのために活用されます。観測網全体の本格運用は平成27年度を予定しています。



平成26年度(第55回)科学技術週間
一般公開(つくば)

ボウサイランド2014
～親子で「あの日」を振り返る休日～

4/20(日)開催

防災科研ニュースに掲載された記事につきまして、ご意見・感想を募集しております。①発行号のNo.、②記事名、③投稿者の所属・氏名、④Web掲載の場合の匿名希望の有無、を明記の上、k-news@bosai.go.jpまでメールにてお送り下さい。お送りいただいたご意見・感想は執筆者にフィードバックいたします。また、当所のWebにて、ご紹介させていただく場合がございます。